

そろばん教室の中で、子どもたちが楽しみにしているものの一つに、練習後のパンの時間があります。日曜日の教会を終えた後に、教室に通う子どもはお腹が空いていることでしょう。また、スクールホリデーの時は、朝開室して、お昼前に終わらせるときにも、パンの時間はあります。2時間の練習の中では、練習時間半分を過ぎたころに各自で休憩を取るようにビスケツト、キャンディ、ピュアウォーターと呼ばれる袋入りの水を配ります。これらやご褒美の購入代は、頂いている協賛金を大切に使用させていただいているものです。このパンやビスケツトを巡って、学校側から“その買うお金があるのなら、なぜ？学校運営にその分を協力できない？”と言われること度々私の中で、この問題は報告書に挙げることではないと思っていました。去年のこの時期は、子どもたちが教会にも行かず、そろばん教室に行っているのは、どうしてなんだ！と、実は強く叱られた時期でもありました。(報告会では“やんわりと言われました”と伝えましたが、実は叱られていたのです。この教会に行かないで、そろばん教室に子どもたちが来ている問題は、信仰心の強い亜ガーナ、日曜日は教会に行くのが当たり前と考える大人が多い村だからこそ、子どもたちには、教会に行つてから来るように伝え、今ではきちんと教会に行つた後に通うようになりまし。これまでも、そろばん教室の運営に関して、学校側から“通う生徒が少ないのに、それでも授業と言えるのか”と言われたこともありまし。日曜日やスクールホリデーに開室しているそろばん教室は、学校の授業料を払っている子どもであれば誰でも通えます。むしろ、教室に通っている子どもは、学校において、計算

がとても速く出来るようになり、教室の効果を学校側も感じてはどのようなのでは？とつい、上から目線的な自分がいるのも事実です。学校側から言われることがそろばん教室の運営上、閉鎖の危機になるのでは？そうした不安も拭いきれません。今回、浮上した“子どもたちの飲食代を学校運営に充てたらどうなんだ”に回答しないまま、今でもパンの時間は続いています。こうした問題に直面する度、大好きなはずのそろばん教室も前日に”明日、大雨が朝から降ってくれないかな。そうすれば、中止なのに”と思ってしまう恥ずかしい自分もいます。そうした思いを抱えながら、行くと必ず、子どもが教室に来るのです。恥ずかしい考えに反省し、潮時はまだまだ来ないと改めて思うのです。私は、この村での潮時は”子どもに必要とされなくなった時が潮時”と考えています。いろんな問題に直面する度、誰が学びたがっているのか？自分以外の誰かのためのそろばん教室だとしたら、それは誰のためなのか？と考えまし。地位名誉を重んずる大人のためでは無いと思つています。子どもが自らの足で通うそろばん教室は、子どもたちの為にあるものだと思います。子どもが一人でも来る限り、そろばん教室を続けていきたいです。

報告 TOSHIKO

